

ちいさな 建設

富山中教院



狭き門

碁盤の目のように道路が整備された富山市中心街。桜橋電車通りから東へ入り、中央通りのアーケード商店街が延々と続く。三〇〇呎ほど進むと南北に「中教院前通り」が交差し、地元で日本一小さな神社と呼ぶ「富山中教院」が二棟のビル間に収まっている。敷地の間口は一問ほど。左右に石造の玉垣と燈籠が立ち、参道は間口半間、奥行き一間半。鳥居を潜れば可愛らしいお社に、天照大御神が祀られている。

明治維新、政府が神道で国を治めようと各地に指導機関を設置したが、宗教界が混乱して廃止され、神社になったものもある。富山中教院もその一つ。江戸時代から門前町として栄えた場所（現在地）にあったが、戦災で焼失。戦後まもなく、商店主など有志が再興し、通りでは夜店が開かれ、賑わった。現在は二十数軒の中教院前通り商店街の人たちが大切に守っている。受験シーズンに、この「狭き門」を潜りに受験生たちが参拝したこともあったという。中教院なら難関校を目指す受験生一人ひとりに、天照大御神が微笑んでくれそうだ。

アクセス バス停「中教院前」から歩いて3分